

## 第5講 ベクトル方程式

### 7 図形のベクトルによる表示

#### ① 直線のベクトル方程式

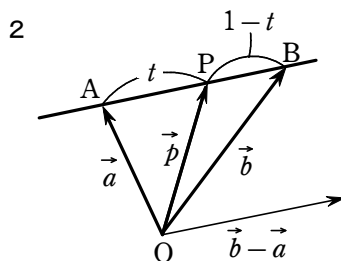
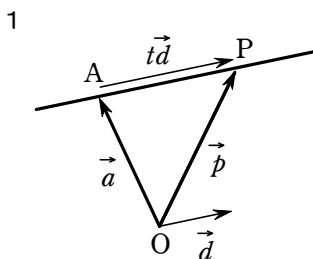
$A(\vec{a})$ ,  $B(\vec{b})$  とし,  $s, t$  は実数の変数とする。

1 点 A を通り,  $\vec{d} (\neq \vec{0})$  に平行な直線  $\vec{p} = \vec{a} + t\vec{d}$

2 異なる 2 点 A, B を通る直線

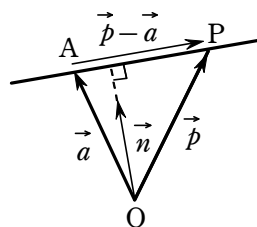
$$\vec{p} = (1-t)\vec{a} + t\vec{b}$$

または  $\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b}$  ただし  $s+t=1$



3 点 A を通り,  $\vec{n} (\neq \vec{0})$  に垂直な直線

$$\vec{n} \cdot (\vec{p} - \vec{a}) = 0$$



#### ② 直線の媒介変数表示

$A(x_1, y_1)$ ,  $B(x_2, y_2)$  とする。

1 点 A を通り, 方向ベクトルが  $\vec{d} = (l, m)$  である直線

$$\begin{cases} x = x_1 + lt \\ y = y_1 + mt \end{cases} \longrightarrow m(x - x_1) - l(y - y_1) = 0$$

2 異なる 2 点 A, B を通る直線  $\begin{cases} x = x_1 + (x_2 - x_1)t \\ y = y_1 + (y_2 - y_1)t \end{cases}$

$$\longrightarrow (y_2 - y_1)(x - x_1) - (x_2 - x_1)(y - y_1) = 0$$

## 第5講 ベクトル方程式

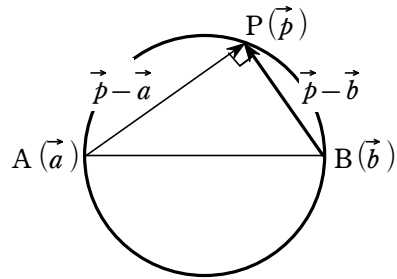
### ③ 平面上の点の存在範囲

$\triangle OAB$  に対し、 $\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$  とすると、点  $P$  の存在範囲は次のようになる。

- 1  $s+t=1$  のとき 直線  $AB$
- 2  $s+t=1, s \geq 0, t \geq 0$  のとき 線分  $AB$
- 3  $s+t \leq 1, s \geq 0, t \geq 0$  のとき  $\triangle OAB$  の周および内部

### ④ 円のベクトル方程式

- 1 中心  $C(\vec{c})$ , 半径  $r$  の円  
$$|\vec{p} - \vec{c}| = r$$
- 2 2点  $A(\vec{a}), B(\vec{b})$  を直径の両端とする円  
$$(\vec{p} - \vec{a}) \cdot (\vec{p} - \vec{b}) = 0$$



## 第5講 例題

### 1 ★★★☆

次の直線のベクトル方程式を媒介変数  $t$  を用いて、成分表示で求めよ。また、媒介変数  $t$  を消去した式で表せ。

- (1) 点  $A(-4, 2)$  を通り、ベクトル  $\vec{d}=(3, -1)$  に平行な直線
- (2) 2点  $A(-3, 5)$ ,  $B(-2, 1)$  を通る直線

### 2 ★★★☆

- (1) 点  $A(4, 6)$  を通り、ベクトル  $\vec{n}=(3, -4)$  が法線ベクトルである直線の方程式を求めよ。
- (2) 2直線  $2x-4y+11=0$ ,  $x+3y-12=0$  のなす鋭角  $\alpha$  を求めよ。

### 3 ★★★☆

- (1) 線分  $AB$  の垂直二等分線を  $\ell$  とし、 $\ell$  上の点を  $P$  とする。  
 $\vec{OA}=\vec{a}$ ,  $\vec{OB}=\vec{b}$ ,  $\vec{OP}=\vec{p}$  として、 $\ell$  のベクトル方程式を求めよ。
- (2)  $\triangle ABC$  の重心を  $G$ , 辺  $BC$  の中点を  $M$  とし、 $\vec{GA}=\vec{a}$ ,  $\vec{GB}=\vec{b}$  とする。  
 点  $M$  を通り、辺  $CA$  に平行な直線上の点を  $P$  とし、 $\vec{GP}=\vec{p}$  とする。この直線のベクトル方程式を、 $\vec{p}$ ,  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて求めよ。

### 4 ★★★☆

次の点  $P$  に対するベクトル方程式はどのような図形を表すか答えよ。

- (1) 平面上の異なる2つの定点  $A, B$  に対して  $|3\vec{AP}+2\vec{BP}|=5$
- (2) 平面上の  $\triangle ABC$  と任意の点  $P$  に対して  $|\vec{PA}+\vec{PB}+\vec{PC}|=3$
- (3) 平面上の相異なる3点  $O, A, B$  に対して  $|2\vec{AP}+\vec{BP}|=|\vec{OA}-\vec{OB}|$
- (4) 平面上の異なる2つの定点  $O, A$  と任意の点  $P$  に対して  $|\vec{OP}|=|\vec{OP}-\vec{OA}|$
- (5) 平面上の異なる2つの定点  $O, A$  と任意の点  $P$  に対して  $|\vec{OP}|^2-2\vec{OA}\cdot\vec{OP}=0$
- (6) 平面上の  $\triangle OAB$  と任意の点  $P$  に対して  $\vec{OP}\cdot(\vec{OP}-\vec{AB})=\vec{OA}\cdot\vec{OB}$

### 5 ★★★☆

$\triangle OAB$  について、 $\vec{OP}=s\vec{OA}+t\vec{OB}$  とする。実数  $s, t$  が次の条件を満たしながら変わるとき、点  $P$  の存在範囲を求めよ。

- (1)  $0\leq s\leq 2, 0\leq t\leq 3$
- (2)  $s+t=3, s\geq 0, t\geq 0$
- (3)  $2s+3t=6, s\geq 0, t\geq 0$
- (4)  $0\leq s+t\leq 2, s\geq 0, t\geq 0$
- (5)  $0\leq 3s+2t\leq 3, s\geq 0, t\geq 0$

## 第5講 例題演習

1

$A(-1, 5)$ ,  $B(2, 4)$ ,  $\vec{d}=(1, -2)$  とする。次の直線のベクトル方程式を媒介変数  $t$  を用いて、成分表示で求めよ。また、媒介変数  $t$  を消去した式で表せ。

- (1)  $A$  を通り、 $\vec{d}$  に平行な直線                      (2) 2点  $A$ ,  $B$  を通る直線

2

- (1) 次の点  $A(3, -2)$  を通り、 $\vec{n}=(-4, 1)$  が法線ベクトルである直線の方程式を求めよ。  
 (2) 2直線  $x-3y+5=0$ ,  $2x+4y+3=0$  のなす鋭角を求めよ。

3

$\triangle ABC$  の頂点  $A$ ,  $B$ ,  $C$  の位置ベクトルを、それぞれ  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  とする。直線上の点を  $P(\vec{p})$  として、次の直線のベクトル方程式を求めよ。

- (1)  $A$  から直線  $BC$  への垂線                      (2)  $A$  と辺  $BC$  の中点を通る直線  
 (3) 辺  $BC$  の垂直二等分線

4

次の点  $P$  に対するベクトル方程式はどのような図形を表すか答えよ。

- (1) 平面上の異なる2つの定点  $A$ ,  $B$  に対して  $|4\vec{AP}+3\vec{BP}|=7$   
 (2) 平面上の  $\triangle ABC$  と任意の点  $P$  に対して  $|\vec{PA}+2\vec{PB}+3\vec{PC}|=6$   
 (3) 平面上の  $\triangle ABC$  と任意の点  $P$  に対して  $|\vec{BP}+\vec{CP}|=|\vec{AB}+\vec{AC}|$   
 (4) 平面上の異なる2つの定点  $O$ ,  $A$  と任意の点  $P$  に対して  $|\vec{p}+2\vec{a}|=|\vec{p}-5\vec{a}|$   
 (5) 平面上の定点  $O$ ,  $A$  に対して  $|\vec{OP}|^2-4\vec{OP}\cdot\vec{OA}+|\vec{OA}|^2=0$   
 (6) 平面上の  $\triangle OAB$  と任意の点  $P$  に対して  $\vec{OP}\cdot(\vec{OP}-\vec{AB})=\vec{OA}\cdot(2\vec{OP}-\vec{OB})$

5

$\triangle OAB$  について、 $\vec{OP}=s\vec{OA}+t\vec{OB}$  とする。実数  $s$ ,  $t$  が次の条件を満たしながら変わるとき、点  $P$  の存在範囲を求めよ。

- (1)  $\vec{OP}=s\vec{OA}+t\vec{OB}$ ,  $1\leq s\leq 2$ ,  $0\leq t\leq 1$                       (2)  $s+t=4$ ,  $s\geq 0$ ,  $t\geq 0$   
 (3)  $s+6t=2$ ,  $s\geq 0$ ,  $t\geq 0$     (4)  $0\leq s+t\leq 3$ ,  $s\geq 0$ ,  $t\geq 0$   
 (5)  $0\leq 2s+3t\leq 6$ ,  $s\geq 0$ ,  $t\geq 0$

第5講 レベルA

1

- (1) 中心  $C(\vec{c})$ , 半径  $r$  の円  $C$  上の点  $P_0(\vec{p}_0)$  における円の接線のベクトル方程式は  $(\vec{p}_0 - \vec{c}) \cdot (\vec{p} - \vec{c}) = r^2$  ( $r > 0$ ) であることを示せ。
- (2) 円  $x^2 + y^2 = r^2$  ( $r > 0$ ) 上の点  $(x_0, y_0)$  における接線の方程式は  $x_0x + y_0y = r^2$  であることを, ベクトルを用いて証明せよ。

2 [(1) 神奈川大, (2) 東北学院大, (3) 兵庫医科大]

- (1) ベクトル  $\vec{a} = (2, 3)$ ,  $\vec{p} = (x, y)$  が  $|\vec{p}|^2 - 4\vec{a} \cdot \vec{p} + 48 = 0$  を満たすとき, 点  $(x, y)$  の描く図形の方程式を求めよ。
- (2)  $xy$  平面上の点  $A(0, 0)$ ,  $B(b, 0)$  に対して,  

$$(\vec{AP} + \vec{BP}) \cdot (\vec{AP} - 2\vec{BP}) = 0$$
 を満たす  $xy$  平面上の点  $P(x, y)$  の描く図形の方程式を求めよ。
- (3) 座標平面上に定点  $A(2, 2)$ ,  $B(7, -3)$  があり, 点  $P$  が  $2|\vec{AP}| = 3|\vec{BP}|$  を満たすように動くとき, 点  $P$  が描く図形の方程式を求めよ。

3 [明治大]

平面上の2つのベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  が,  $|\vec{a}| = 1$ ,  $|\vec{b}| = 2$  を満たし,  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  のなす角が  $60^\circ$  のとき,  $2\vec{a} - 3\vec{b}$  と  $2\vec{a} + \vec{b}$  のなす角を  $\theta$  とすれば,  $\cos \theta = \sqrt{\quad}$  である。また, 円のベクトル方程式  $(\vec{p} - 2\vec{a} + 3\vec{b}) \cdot (\vec{p} - 2\vec{a} - \vec{b}) = 0$  で定まる円の半径は,  $\sqrt{\quad}$  である。

4 [愛知教育大]

$\triangle OAB$  がある。  $\vec{OP} = \alpha\vec{OA} + \beta\vec{OB}$  で表されるベクトル  $\vec{OP}$  の終点  $P$  の集合は,  $\alpha, \beta$  が次の条件を満たすとき, それぞれどのような図形を表すか。  $O, A, B$  を適当にとって図示せよ。

- (1)  $\frac{\alpha}{2} + \frac{\beta}{3} = 1, \alpha \geq 0, \beta \geq 0$
- (2)  $1 \leq \alpha + \beta \leq 2, 0 \leq \alpha \leq 1, 0 \leq \beta \leq 1$
- (3)  $\beta - \alpha = 1, \alpha \geq 0$

## 第5講 レベルB

### 1 [旭川医科大]

$a$  を正の定数とする。  $AB=a$ ,  $AC=2a$ ,  $\angle BAC=\frac{2}{3}\pi$  である  $\triangle ABC$  と,

$|2\overrightarrow{AP}-2\overrightarrow{BP}-\overrightarrow{CP}|=a$  を満たす動点  $P$  がある。

- (1) 辺  $BC$  を  $1:2$  に内分する点を  $D$  とするとき,  $|\overrightarrow{AD}|$  を求めよ。
- (2)  $|\overrightarrow{AP}|$  の最大値を求めよ。
- (3) 線分  $AP$  が通過してできる図形の面積  $S$  を求めよ。

### 2

$\triangle OAB$  において, 次の条件を満たす点  $P$  の存在範囲を求めよ。

- (1)  $\overrightarrow{OP}=s\overrightarrow{OA}+(s+t)\overrightarrow{OB}$ ,  $0\leq s\leq 1$ ,  $0\leq t\leq 1$
- (2)  $\overrightarrow{OP}=(s-t)\overrightarrow{OA}+(s+t)\overrightarrow{OB}$ ,  $0\leq s\leq 1$ ,  $0\leq t\leq 1$

### 3 [横浜国立大]

平面上に  $\triangle OAB$  があり,  $OA=5$ ,  $OB=6$ ,  $AB=7$  を満たしている。  $s, t$  を実数とし, 点  $P$  を  $\overrightarrow{OP}=s\overrightarrow{OA}+t\overrightarrow{OB}$  によって定める。

- (1)  $\triangle OAB$  の面積を求めよ。
- (2)  $s, t$  が  $s\geq 0$ ,  $t\geq 0$ ,  $1\leq s+t\leq 2$  を満たすとき, 点  $P$  が存在しうる部分の面積を求めよ。
- (3)  $s, t$  が  $s\geq 0$ ,  $t\geq 0$ ,  $1\leq 2s+t\leq 2$ ,  $s+3t\leq 3$  を満たすとき, 点  $P$  が存在しうる部分の面積を求めよ。

## 章末問題A

1

平面上の相異なる3点  $O, A, B$  に対して,  $\overrightarrow{OA}=\vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB}=\vec{b}$  とし,  $\vec{p}=\vec{a}+2\vec{b}$ ,  
 $\vec{q}=\frac{-\vec{a}+2\vec{b}}{4}$  とする.  $\vec{p}=\overrightarrow{OP}$ ,  $\vec{q}=\overrightarrow{OQ}$  であるような2点  $P, Q$  をとる.  $|\vec{p}|=4$ ,  
 $|\vec{q}|=1$  であるとき, 次の問いに答えよ.

- (1)  $|\vec{a}|=|\vec{b}|$  のとき, 内積  $\vec{p}\cdot\vec{q}$  を求めよ.
- (2) 2つのベクトル  $\overrightarrow{AB}$ ,  $\overrightarrow{PQ}$  が垂直であるとき, 内積  $\vec{p}\cdot\vec{q}$  を求めよ.

2 [新潟大]

平行四辺形  $ABCD$  において, 辺  $AB$  を  $3:2$  に内分する点を  $E$ , 辺  $BC$  を  $1:2$  に内分する点を  $F$ , 辺  $CD$  の中点を  $M$  とする. 線分  $CE$  と線分  $FM$  の交点を  $P$ , 線分  $AP$  の延長と辺  $BC$  との交点を  $Q$  とし,  $\overrightarrow{AB}=\vec{a}$ ,  $\overrightarrow{AD}=\vec{b}$  とするとき

- (1)  $\overrightarrow{AP}$  を  $\vec{a}, \vec{b}$  を用いて表せ.
- (2)  $FQ:QC$  を求めよ.

3 [群馬大]

座標平面上の2点を  $A(\cos\theta, \sin\theta)$ ,  $B(\sqrt{3}\sin\theta - \cos\theta, \sin\theta + \sqrt{3}\cos\theta)$  とする.  
 $O$  を原点とするとき

- (1) ベクトル  $\overrightarrow{OB}$  の大きさを求めよ.
- (2)  $\theta=45^\circ$  のとき, 2つのベクトル  $\overrightarrow{OA}$  と  $\overrightarrow{OB}$  との内積  $\overrightarrow{OA}\cdot\overrightarrow{OB}$  を求めよ.
- (3) (2) のとき,  $\angle AOB$  の大きさを求めよ.
- (4) 2つのベクトル  $\overrightarrow{OA}$  と  $\overrightarrow{OB}$  が垂直になるように  $\theta$  を定めよ. ただし,  $0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$  とする.

4 [神戸商科大]

$\triangle OAB$  において,  $|\overrightarrow{OA}|=3$ ,  $|\overrightarrow{OB}|=2$ ,  $\overrightarrow{OA}\cdot\overrightarrow{OB}=4$  とする. 点  $A$  で直線  $OA$  に接する円の中心  $C$  が  $\angle AOB$  の二等分線  $g$  上にある.  $\overrightarrow{OC}=\vec{c}$  を  $\overrightarrow{OA}=\vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB}=\vec{b}$  で表せ.

## 章末問題A

### 5 [鹿児島大]

平面に四角形 ABCD があり、 $\overrightarrow{AB}=\vec{b}$ 、 $\overrightarrow{AD}=\vec{d}$  とおくと、頂点 C は

$$\overrightarrow{AC}=\frac{4}{5}\vec{b}+\frac{3}{5}\vec{d}$$

を満たすものとする。このとき、次の各問いに答えよ。

- (1) 直線 AB と DC の交点を E、直線 AD と BC の交点を F とする。ベクトル  $\overrightarrow{AE}$  と  $\overrightarrow{AF}$  を  $\vec{b}$  と  $\vec{d}$  を用いて表せ。
- (2) 線分 BD の中点を Q、線分 EF の中点を R とするとき、ベクトル  $\overrightarrow{QR}$  を  $\vec{b}$  と  $\vec{d}$  を用いて表せ。
- (3) 線分 AC の中点を P とするとき、3 点 P、Q、R は同一直線上にあることを証明せよ。

### 6 [大阪府立大]

OA=OB=1 を満たす二等辺三角形 OAB において、辺 AB を 1:3 に内分する点を P、辺 OB の中点を Q、直線 OP と直線 AQ の交点を R、直線 BR と辺 OA の交点を S とし、 $\vec{a}=\overrightarrow{OA}$ 、 $\vec{b}=\overrightarrow{OB}$  とおく。このとき、直線 BS は辺 OA と直交しているとする。

- (1) ベクトル  $\overrightarrow{OR}$  を  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  を用いて表せ。
- (2) ベクトル  $\overrightarrow{BS}$  を  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  を用いて表せ。
- (3) 内積  $\vec{a}\cdot\vec{b}$  を求めよ。
- (4) 三角形 OAB の面積を求めよ。

### 7 [香川大]

平行四辺形 ABCD は、AB=2、AD=3、 $\cos\angle BAD=\frac{1}{3}$  を満たしているとする。直線 BC 上に  $BC\perp AP$  となる点 P をとり、直線 BD 上に  $BD\perp AQ$  となる点 Q をとる。

$\overrightarrow{AB}=\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{AD}=\vec{b}$  とおくと、次の問いに答えよ。

- (1) 内積  $\vec{a}\cdot\vec{b}$  を求めよ。
- (2)  $\overrightarrow{AP}$  と  $\overrightarrow{AQ}$  を  $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$  で表せ。
- (3) AP の長さ と AQ の長さを求めよ。
- (4) PQ の長さを求めよ。

## 章末問題A

### 8 [東京都市大]

3点  $O(0, 0)$ ,  $A(6, 3)$ ,  $B(2, 4)$  を頂点とする  $\triangle OAB$  に対し,  $\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$  とする。実数  $s, t$  が条件  $0 \leq s+t \leq \frac{1}{2}$ ,  $s \geq 0, t \geq 0$  を満たしながら動くとき, 点  $P$  の存在範囲が  $\triangle OA'B'$  の周および内部であるとする, 点  $A'$  の座標は  $\text{ア}$  , 点  $B'$  の座標は  $\text{イ}$   である。ただし, 点  $A'$  は直線  $OA$  上, 点  $B'$  は直線  $OB$  上にあるものとする。

また, 3点  $O(0, 0)$ ,  $C(9, \frac{9}{2})$ ,  $D(3, 6)$  を頂点とする  $\triangle OCD$  に対し,  $\overrightarrow{OQ} = s'\overrightarrow{OC} + t'\overrightarrow{OD}$  とする。点  $Q$  の存在範囲が点  $P$  の存在範囲と一致するとき, 実数  $s'$  と  $t'$  の満たす条件は  $\text{ウ}$   である。

### 9 [山梨大]

$O$  を原点とする座標平面上に, 半径  $r$ , 中心の位置ベクトル  $\overrightarrow{OA}$  の円  $C$  を考え, その円周上の点  $P$  の位置ベクトルを  $\overrightarrow{OP}$  とする。また, 円  $C$  の外部に点  $B$  を考え, その位置ベクトルを  $\overrightarrow{OB}$  とする。更に, 点  $B$  と点  $P$  の中点を  $Q$ , その位置ベクトルを  $\overrightarrow{OQ}$ , 点  $P$  が円周上を動くとき点  $Q$  が描く図形を  $D$  とする。

- (1) 円  $C$  を表すベクトル方程式を求めよ。
- (2) 図形  $D$  を表すベクトル方程式を求めよ。
- (3)  $r=1, \overrightarrow{OA}=(2, 5), \overrightarrow{OB}=(-1, -1)$  のとき,  $\overrightarrow{OQ}=(x, y)$  において図形  $D$  を表す方程式を求めよ。また, 図形  $D$  と  $y$  軸との共有点の座標を求めよ。

## 章末問題B

### 1 [大阪大]

平面上の三角形 OAB を考え、 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ ,  $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$ ,  $t = \frac{|\vec{a}|}{2|\vec{b}|}$  とおく。辺 OA を 1:2 に

内分する点を C とし、 $\overrightarrow{OD} = t\vec{b}$  となる点を D とする。 $\overrightarrow{AD}$  と  $\overrightarrow{OB}$  が直交し、 $\overrightarrow{BC}$  と  $\overrightarrow{OA}$  が直交するとき、次の問いに答えよ。

- (1)  $\angle AOB$  を求めよ。
- (2)  $t$  の値を求めよ。
- (3) AD と BC の交点を P とするとき、 $\overrightarrow{OP}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて表せ。

### 2 [北海道大]

$\triangle ABC$  が、 $AB=2$ ,  $AC=1+\sqrt{3}$ ,  $\angle ACB=45^\circ$  を満たすとする。

- (1)  $\beta = \angle ABC$  とおくと、 $\sin \beta$  および  $\cos 2\beta$  の値を求めよ。
- (2) (1) の  $\beta$  の値をすべて求めよ。
- (3)  $\triangle ABC$  の外接円の中心を O とする。 $\triangle ABC$  が鋭角三角形であるとき、 $\overrightarrow{OC} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$  を満たす実数  $s$ ,  $t$  を求めよ。

### 3 [神戸大]

平行四辺形 ABCD において、対角線 AC を 2:3 に内分する点を M, 辺 AB を 2:3 に内分する点を N, 辺 BC を  $t:(1-t)$  に内分する点を L とし、AL と CN の交点を P とする。

- (1)  $\overrightarrow{BA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{BC} = \vec{c}$  とするとき、 $\overrightarrow{BP}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{c}$ ,  $t$  を用いて表せ。
- (2) 3点 P, M, D が一直線上にあるとき、 $t$  の値を求めよ。

### 4 [京都大]

$\triangle OAB$  において、 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ ,  $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$  とし、 $|\vec{a}|=3$ ,  $|\vec{b}|=5$ ,  $\cos \angle AOB = \frac{3}{5}$  とする。

このとき、 $\angle AOB$  の二等分線と B を中心とする半径  $\sqrt{10}$  の円との交点の、O を原点とする位置ベクトルを、 $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて表せ。

## 章末問題B

### 5 [横浜国立大]

$\triangle ABC$  があり、 $AB=3$ 、 $BC=7$ 、 $CA=5$  を満たしている。 $\triangle ABC$  の内心を  $I$ 、 $\overrightarrow{AB}=\vec{b}$ 、 $\overrightarrow{AC}=\vec{c}$  とおく。次の問いに答えよ。

- (1)  $\overrightarrow{AI}$  を  $\vec{b}$  と  $\vec{c}$  を用いて表せ。
- (2)  $\triangle ABC$  の面積を求めよ。
- (3) 辺  $AB$  上に点  $P$ 、辺  $AC$  上に点  $Q$  を、3 点  $P$ 、 $I$ 、 $Q$  が一直線上にあるようにとるとき、 $\triangle APQ$  の面積  $S$  のとりうる値の範囲を求めよ。

### 6 [島根大]

平面上に一辺の長さが 1 の正三角形  $OAB$  と、辺  $AB$  上の点  $C$  があり、 $AC < BC$  とする。点  $A$  を通り直線  $AB$  に直交する直線  $k$  と、直線  $OC$  との交点を  $D$  とする。 $\triangle OCA$  と  $\triangle ACD$  の面積の比が  $1:2$  であるとき、次の問いに答えよ。

- (1)  $\overrightarrow{OD}=m\overrightarrow{OA}+n\overrightarrow{OB}$  となる  $m$ 、 $n$  の値を求めよ。
- (2) 点  $D$  を通り、直線  $OD$  と直交する直線を  $l$  とする。 $l$  と直線  $OA$ 、 $OB$  との交点をそれぞれ  $E$ 、 $F$  とするとき、 $\overrightarrow{EF}=s\overrightarrow{OA}+t\overrightarrow{OB}$  となる  $s$ 、 $t$  の値を求めよ。

### 7 [大阪府立大]

平面上に 4 点  $O$ 、 $A$ 、 $B$ 、 $C$  があり、点  $O$  を始点とするそれぞれの位置ベクトルを  $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$ 、 $\vec{c}$  とし、 $|\vec{a}|=\sqrt{2}$ 、 $|\vec{b}|=\sqrt{10}$ 、 $\vec{a}\cdot\vec{b}=2$ 、 $\vec{a}\cdot\vec{c}=8$ 、 $\vec{b}\cdot\vec{c}=20$  が成り立つとする。

- (1)  $\vec{c}$  を  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  を用いて表せ。
- (2) 点  $C$  から直線  $AB$  に下ろした垂線と直線  $AB$  の交点を  $H$  とする。このとき、ベクトル  $\overrightarrow{OH}$  を  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  を用いて表せ。また、 $|\overrightarrow{CH}|$  を求めよ。
- (3) 実数  $s$ 、 $t$  に対して、点  $P$  を  $\overrightarrow{OP}=s\vec{a}+t\vec{b}$  で定める。 $s$ 、 $t$  が条件  $(s+t-1)(s+3t-3)\leq 0$  を満たしながら変化するとき、 $|\overrightarrow{CP}|$  の最小値を求めよ。

### 8 [静岡大]

平面上に  $\triangle ABC$  がある。実数  $a$ 、 $b$ 、 $c$  は条件

$$(a) \quad a < 0, \quad b > 0, \quad c > 0, \quad a + b + c \neq 0$$

を満たし、点  $P$  は  $a\overrightarrow{PA}+b\overrightarrow{PB}+c\overrightarrow{PC}=\vec{0}$  を満たしている。また、辺  $BC$  を  $c:b$  に内分する点を  $D$  とする。

- (1)  $\overrightarrow{AD}$  を  $\overrightarrow{AB}$  と  $\overrightarrow{AC}$  を用いて表せ。
- (2)  $a$ 、 $b$ 、 $c$  が条件 (a) を満たしながら動くとき、 $P$  の存在範囲を図示せよ。

## 章末問題B

---

---

### 9 [岡山大]

原点を  $O$  とする座標平面上に、点  $A(2, 0)$  を中心とする半径  $1$  の円  $C_1$  と、点  $B(-4, 0)$  を中心とする半径  $2$  の円  $C_2$  がある。点  $P$  は  $C_1$  上を、点  $Q$  は  $C_2$  上を、それぞれ独立に、自由に動きまわるとする。

(1)  $\overrightarrow{OS} = \frac{1}{2}(\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OQ})$  とするとき、点  $S$  が動く範囲を図示せよ。

(2)  $\overrightarrow{OR} = \frac{1}{2}(\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ})$  とするとき、点  $R$  が動く範囲を図示せよ。

## 章末問題C

### 1 [東北大]

平面上に長さ3の線分OAを考え、ベクトル $\overrightarrow{OA}$ を $\vec{a}$ で表す。 $0 < t < 1$ を満たす実数 $t$ に対して、 $\overrightarrow{OP} = t\vec{a}$ となるように点Pを定める。大きさ2のベクトル $\vec{b}$ を $\vec{a}$ と角 $\theta$  ( $0^\circ < \theta < 180^\circ$ )をなすようにとり、点Bを $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ で定める。線分OBの中点をQとし、線分AQと線分BPの交点をRとする。

このとき、どのように $\theta$ をとっても $\overrightarrow{OR}$ と $\overrightarrow{AB}$ が垂直にならないような $t$ の値の範囲を求めよ。

### 2 [一橋大]

平面ベクトル $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$ は次の(A), (B)を満たす。

$$(A) \vec{a} \cdot \vec{c} = \vec{b} \cdot \vec{c} = -\sqrt{3} \vec{a} \cdot \vec{b} \quad (B) |\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 1$$

(1)  $\vec{a}$ と $\vec{b}$ は平行でないことを示せ。

(2)  $\vec{a} \cdot \vec{b}$ の値を求めよ。

### 3 [東京大]

$\triangle ABC$ において $\angle BAC = 90^\circ$ ,  $|\overrightarrow{AB}| = 1$ ,  $|\overrightarrow{AC}| = \sqrt{3}$ とする。 $\triangle ABC$ の内部の点Pが

$$\frac{\overrightarrow{PA}}{|\overrightarrow{PA}|} + \frac{\overrightarrow{PB}}{|\overrightarrow{PB}|} + \frac{\overrightarrow{PC}}{|\overrightarrow{PC}|} = \vec{0}$$

を満たすとする。

(1)  $\angle APB$ ,  $\angle APC$ を求めよ。

(2)  $|\overrightarrow{PA}|$ ,  $|\overrightarrow{PB}|$ ,  $|\overrightarrow{PC}|$ を求めよ。

### 4 [東京大]

1辺の長さが1の正六角形ABCDEFが与えられている。点Pが辺AB上を、点Qが辺CD上をそれぞれ独立に動くとき、線分PQを2:1に内分する点Rが通りうる範囲の面積を求めよ。

### 5 [京都大]

$\triangle ABC$ に対し、辺AB上に点Pを、辺BC上に点Qを、辺CA上に点Rを、頂点とは異なるようにとる。この3点がそれぞれの辺上を動くとき、この3点を頂点とする三角形の重心はどのような範囲を動くか図示せよ。

## 章末問題C

### 6 [大阪大]

平面上に原点  $O$  を中心とする半径  $1$  の円  $K_1$  を考える。 $K_1$  の直径を  $1$  つとり、その両端を  $A, B$  とする。円  $K_1$  の周上の任意の点  $Q$  に対し、線分  $QA$  を  $1:2$  に内分する点を  $R$  とする。いま、 $k$  を正の定数として、 $\vec{p} = \vec{AQ} + k\vec{BR}$  とおく。ただし、 $Q=A$  のときは  $R=A$  とする。また、 $\vec{OA} = \vec{a}$ ,  $\vec{OQ} = \vec{q}$  とおく。

- (1) 点  $Q$  が円  $K_1$  の周上を動くとき、 $\vec{OP} = \vec{p}$  となるような点  $P$  が描く図形を  $K_2$  とする。 $K_2$  は円であることを示し、中心の位置ベクトルと半径を求めよ。
- (2) 円  $K_2$  の内部に点  $A$  が含まれるような  $k$  の値の範囲を求めよ。